

<別紙1>

## 第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

よこはま地域福祉研究センター

② 施設・事業所情報

名称：パレット保育園センター南	種別：児童分野 認可保育所
代表者氏名：施設長 平澤千景	定員（利用人数）： 名
所在地：〒224-0032 横浜市都筑区茅ヶ崎中央5-1 港北東急百貨店6階	
TEL：045-949-9211	ホームページ： <a href="http://www.p-hoiku.com/">http://www.p-hoiku.com/</a>
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2002年11月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社 理究	
職員数	常勤職員： 17 名 非常勤職員 4 名
専門職員	施設長 1 名
	保育士 17 名
	栄養士 3 名
施設・設備 の概要	(居室数) 3 室
	(設備等) 保育室、調理室、事務室、倉庫、 更衣室など

③ 理念・基本方針

### 保育理念

1. ひとりひとりを「大きな家族」の一員として認め、役割を認識させ、愛情を持って育てます。
2. ひとりひとりの子どもを見極め、発達段階に応じ、「感性・知性・体力を培う」三位一体のバランス保育・教育を信条として育てます。
3. ひとりひとりが意欲的な生命力を発揮できるよう「自立と自尊と自律」の精神を大切に育てます。

### 保育の方針

「保育所保育方針」に準じ、保育・養護の視点と発達・教育の視点で、「健康」・「人間関係」・「環境」・「言葉」・「表現」の五領域を縦断的にとらえ、子どもの成長に合せ、子どもの力を最大限に引き出すよう努めます。

1. スタッフの基本行動原則「丁寧・賞賛・感覚・微笑・予習＝余裕」に基づき、保育者チームは、大きな家族の構成員として見守る保育を実践します。
2. “個性豊かで元気な頭の良い子”を願う保護者のニーズに応えられる「幼児プログラム」を実践します。幼児教育プログラム実践の要諦は、子ども自身の「意欲」です。「やりたい、知りたい」という好奇心を大切にします。
3. 自分のことはできる限り自分でできる喜びを得る、そして最後までやり抜く、頑張れる「自立支援」保育を実践します。
4. 縦割り実践教育形態を通じ、小さな子、弱い子を思いやれる、仲間との関係を大切に、など他者との中で「自律」する力をつける保育を実践します。
5. 自分は愛されている、そして、頑張ればやり通すことができるという「自尊感情」を育み、人間の土台づくりをする保育を実践します。

#### ④施設・事業所の特徴的な取組

センター南駅すぐの商業施設内6階に設置された定員40名の小規模保育園です。2クラスで1つの保育室を使用しており、活動内容に合わせて異年齢交流や合同保育もおこなっています。

全園児で1つのクラスのように職員は全園児に関わり、情報を共有し、見守っています。

子どもたちは店舗の従業員や警備員と挨拶をしたり、製作物を設置してもらうなど、立地ならではの交流があります。また、屋上に人工芝の園庭があり、運動やプール遊びに使用するほか、プランターで野菜を育てています。

#### ⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年6月10日（契約日）～ 2022年10月11日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	4回（2017年度）

#### ⑥総評

◇特長や今後期待される点

【特徴】

**◆職員は保育理念の「大きな家族」を基に同じ志で日々の保育をおこなっています。**

子どもたち一人ひとりの状況は職員全員で共有し、その子どもにあった対応を誰もが同じようにできるように気をつけています。それは子どもに対してだけでなく、保護者に対しても同様に気配りし、園全体で見守っています。園の理念は毎年全員で話し合い、理解を深めています。施設長と保育士間、保育士と栄養士間、保育士と子どもたち、子どもたち同士、いずれもお互いを尊重する温かい関係にあり、園全体を「大きな家族」としてとらえることが浸透しています。職員の語り掛けは優しく、急かすような声掛けや否定語、大声はなく、いつも穏やかです。働きやすく温かい人間関係のため、職員の定着率が高く、それが新人の育成や円滑なクラス運営につながり、子どもたちが安心して穏やかに過ごせる園になっています。

**◆子どもたちは保育士に見守られ、のびのびと園生活を楽しんでいます**

子どもたちは保育士に見守られ、年齢に応じ基本的な生活習慣を身に付けていきます。デイリープログラムは子どもたちが主体的に生活するためにはどうしたらいいかを大事に考えて、それぞれのクラスの子どもの月齢や生活リズムを考慮したものになっています。日によって子どもたちが遊びこめる時間を保証して、食事時間を少し遅めにしたり、体調を考慮して午睡時間を早めたりしています。また、継続して遊ぶことができるように作成途中のブロックを保存する箱を用意したり、行事で制作した小道具を普段の遊びに使って遊びが発展するようにしたりしています。戸外でも室内でも、乳児はひとり遊びや2,3人の好きな友だちとゆったり遊び、幼児は集団でルールのある遊びを元気に楽しんでいます。友だち同士の関わりも保育士の見守りの中で育まれ、ケンカの仲裁をしたり、困っている友だちを助けたり、お互いを思いやることができ、仲良くのびのびすごしている姿が見られました。

【今後期待される点】

**◆お互いに学びあう意識を持つことにより、さらに保育の質が高められることが期待されます**

法人は年間研修計画を作成し、個人別に研修計画を作り、外部研修にも積極的に参加できるようにして人材育成をしています。指導計画に関する研修もありますが、指導計画の立て方や日々の振り返りにクラスによりばらつきがみられます。各クラスの

指導計画を共有する時間を設けることや、日々の保育実践について率直な意見交換をするなど、お互いに刺激し合って保育の向上を目指すことにより、さらに保育の質が高められ、自信を持って日々の保育にあたることが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

受審にあたり、定義や目的、流れ等をご説明いただき、センター南園の良さや強みを見つめる機会となりましたことに感謝申し上げます。また、例年の自己評価より深く、園の取り組みに対して全スタッフで見直すこともできました。引き続き、子どもたちと保護者と全スタッフで「大きな家族」として温かい関係性を築きながら、今後は評価結果をもとに計画や保育、福祉サービス等を本社及び全スタッフでより良く改善していきます。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり